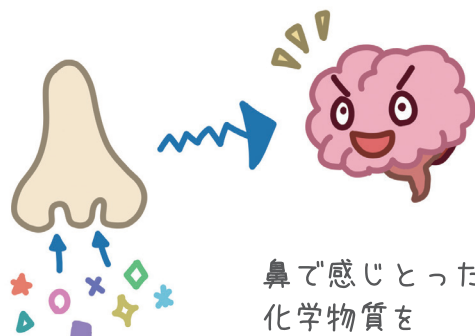




嗅覚障害ってどんな病気？

■ ニオイを感じる仕組み

鼻の奥の嗅上皮といわれる部分にある嗅細胞が、外部から入ってきた化学物質を読み取り、電気信号にして脳内に伝達します。脳はこの信号を受け取るとそれを特定のニオイとして認識します。



鼻で感じとった
化学物質を
脳で識別

■ 嗅覚障害とは

ニオイが分からなくなることを嗅覚障害といいます。程度は、全く分からなくなるものから、感じるはずのないニオイを感じてしまうもの（異臭症）まで様々です。

■ 嗅覚障害の原因

鼻の病気 副鼻腔炎（ちくのう）、アレルギー性鼻炎、感冒（風邪）罹患後の嗅覚障害

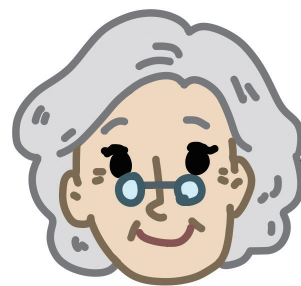
頭の病気 パーキンソン病、アルツハイマー、頭部外傷

その他 特発性（原因不明）、精神疾患（うつ病など）、加齢、薬剤性 など

■ 嗅覚と加齢

嗅覚も年を重ねるにつれ、視覚や聴覚といった他の感覚器と同様に衰えていきます。嗅覚細胞のターンオーバー（新陳代謝）が衰えてきて、細胞の数が減ってしまうせいで起こります。

80歳以上の高齢者の四分之三が、嗅覚に障害を抱えていると言われています。



80歳以上の高齢者の
4人に3人が嗅覚障害

■ 認知症と嗅覚障害

嗅覚機能が低下している軽度認知機能障害の一部は、アルツハイマー型認知症に進行するといわれています。また、認知症を発症していないパーキンソン病のうち、重度の嗅覚障害を認めた患者では将来、認知症を発症する危険が高いとされています。嗅覚検査は身体への負担が少なく、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患において早期診断、鑑別および認知症の予測に有用です。

■ 当院で行っている嗅覚検査

画像診断

CTで嗅覚障害の原因となるような副鼻腔炎や鼻腔腫瘍などがないかを確認します。

基準嗅覚検査

ニオイをどれくらい感じられるかをニオイの濃度を変えた(7～8段階)薬液で検査します。

ニオイは5種類あります。

静脈性嗅覚検査

ニンニクの匂いのする薬液を静脈内に注射し、ニオイを感じるかどうかを検査します。

■ 嗅覚障害の検査方法

① T & T オルファトメーター(基準嗅覚検査)

バラエティに富んだ5種類のニオイの液体を、薄い濃度から濃い濃度へと実際に嗅いでいくことで、現在どれくらいの嗅覚障害があるのかを判定する検査です

検査の実際

検査を受ける方は、看護師から渡されたニオイ紙を嗅ぎます

ニオイを初めてなんとなく感じたら知らせてください

どんなニオイが分かったら、知らせてください
(表現するのが難しければ、選択肢の中から選んでください)

※検査時間は約10～20分です

※痛みが伴う検査ではありません

看護師が
ニオイ紙に
基準臭をつけます



ニオイ紙を
鼻につけないように
嗅ぎます



② 静脈性嗅覚検査

ニオイ(ニンニクの匂い)のついた薬液を注射して、ニオイを感じるまでの時間とその継続時間を測定することで嗅覚障害の程度を判定する検査です

検査の実際

検査液を静脈に20秒かけて注射します

ニオイを感じたら知らせてください

ニオイを感じなくなったら知らせてください

※検査時間は2～3分です

※注射針を刺す痛みは必ず起こります。また、注射液による血管痛が起こる可能性があります

